

新元号「令和」の時代に！

私事ですが、先月執行された町長選挙にて、不肖ながらも私が町長として再選をさせていただきました。これもひとえに町民の皆様からのご支援とご指導の賜物と心から感謝を申し上げます。今回の選挙では、無投票当選という結果ではありましたが、課せられた使命と責任の重さを改めて痛感しております。引き続き皆様のご支持がいただけますよう粉骨砕身してまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。



初春の令月にして、気淑（よ）く風和ぎ、梅は鏡前の粉（こ）を披（ひら）き、蘭は珮後（はいご）の香を薫（かをら）す

【初春のよい月で、空気は美しく風は和やかで、梅は鏡の前のおしろいのように白く花咲き、蘭は身を飾るお香のように薫っている】

—万葉集「梅花の歌」より—

5月1日、新しい天皇の即位により新元号「令和」の時代が始まりました。この令和という文字は、万葉集からの出典とのこと。新しい時代の始まりを清々しい気持ちで迎えたかた、相変わらずの忙しさの中で迎えたかた、それぞれにいろいろな思いがあって良いのではないかと思います。

今年のゴールデンウィークはいままでで最長だった5連休を大きく上回り、過去最長となる10連休となりました。連休を楽しめたかたも多かったのではないかと思います。朝日新聞社が実施した全国世論調査（電話）で、春の大型連休（GW）が10連休になることについて尋ねると、「うれしい」と答えたかたが35%に対して、「うれしくない」と答えたかたが45%と多かったそうです。「うれしい」と答えたのは若年層ほど多く、18～29歳は58%、30代は43%に対し、60代は25%、70歳以上は18%だったとのこと。職業別では事務・技術職層の51%が「うれしい」と答える一方、製造・サービス従事者層の「うれしい」は35%にとどまり、50%が「うれしくない」と回答。主婦層では53%が「うれしくない」と答えたそうです。

また、ゴールデンウィーク中の飲食店の集客が好調だったというニュースもありました。旅行や移動が多いとされる大型連休では、飲食店の集客が鈍るといわれますが、なぜか今年のゴールデンウィークは非常に好調だったと聞いております。その大きな理由は、10連休になることが前もって十分に告知されていたことが好調を生んだといわれております。今後は大型連休にする際には、

前もって十分な告知をして入念なる準備を行うということが重要となります。また、連休といっても鉄道、航空会社、病院、コンビニ、警察、消防、外食産業や旅行業者などは、サービスを提供するためにフル稼働しております。連休などには関係ない業種があって私たちの生活は支えられているのです。

明和町においても、職員の総意のもとに4月30日から5月2日までの3日間については開庁とし、出勤可能な職員が交代で休日にも関わらず業務にあたりました（出勤した職員は代休処理）。10日間も役場を閉めてしまえば、困る町民のかたもいるのではないか？そんな思いからの決断でしたが、ほかの町村では戸籍関係事務のみの取扱が多かったようです。その3日間での明和町役場本庁舎への来庁者数は186名で、処理した案件数は279件でした。また、メディアでも話題になっていた「令和婚」は4組ありました。この数字を見て「開庁して良かったな！」と私も胸をなで下ろした次第です。

もともと公務員は「公衆への奉仕者」と言われ、地域全体へのサービス業としての心構えが必要です。サービス業は土日祝日関係なくサービスをするために働く場合が多いのですが、日本のサービス業の真髄ともいえる公務員については、休日はカレンダー通りという昔からの「親方日の丸体質」がいまだに根強くあることは事実です。明和町の職員でも出先（公民館・日本キャンパックホール・海洋センター・スズカケ・ポプラ）の職員は10連休ではなく交代勤務で例年のゴールデンウィークもカレンダー通りには休んでいません。今回、

本庁舎勤務の職員が「10連休では町民の皆様にご迷惑をかけることになるから、休日ではあるが交代制で開庁しよう」と判断したことは、ようやく自分たちの仕事が「誰のためにあり、誰のために頑張るのか」が見えてきて、従来の親方日の丸体質を抜け出してきた証しだと思っております。

令和を迎え新時代が始まりました。明和町の職員の意識の変化に！やる気に！この町がさらに好転していくそんな期待を寄せながら、職員が町を引っ張る気運に、「初春の令月にして、気よく風和ぎ、明日への希望と共に、明和町の1人ひとりが大きな花を咲かせるように願いを込めて5月のそよ風の匂いに酔いしれた」心地の良い連休でした。

令和元年 5 月 22 日

明和町長 富塚もとすけ